資料４

令和５年４月 11 日
実務者検討委員会

デジタルアーカイブジャパン・アワード（2023）の実施について（案）

１．創設の経緯

デジタルアーカイブジャパン・アワード（以下「アワード」という。）は、デジタルアーカイブの拡充や利活用の促進に積極的に取り組むアーカイブ機関、データを集約してジャパンサーチに届けるつなぎ役、そして活用者をはじめとしたステークホルダーを顕彰し、それらの取組を広く社会に紹介することにより、デジタルアーカイブ活用の機運を盛り上げることを目的として、2022 年に実務者検討委員会が創設した表彰制度である[1]。

２．継続性を踏まえた 2023 年の実施について

アワードの創設目的を遵行しつつ、前回実施時の課題・指摘を踏まえ、推薦者の対象や、選考委員会の構成を見直した上で継続的に実施することで、ジャパンサーチ戦略方針 2021-2025 に掲げる「デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ豊かな創造的社会」の実現を目指す。

３．表彰の対象

表彰の対象となる活動は「ジャパンサーチ・アクションプラン 2021-2025」に記載のある活動（アクション）に関する活躍や貢献とし、表彰対象はジャパンサーチの連携機関又は活用者とする。

４．表彰の選考基準

次の 5 つの観点から、それぞれのデジタルアーカイブに関する活動における貢献に基づき、受賞者を選定する。

① オープン化の推進
② つなぎ役としての貢献
③ 利活用の促進
④ 地域情報の発信
⑤ その他の貢献（新サービス、人材育成など）

５．選考方法

実務者検討委員会及びワーキンググループ構成員、並びにジャパンサーチの連携機関から受賞候補を理由と合わせて募集（自薦可）し、受賞候補の中から、実務者検討委員会のも

[1] 「デジタルアーカイブジャパンアワード（仮称）の創設について」第 14 回実務者検討委員会（令和４年７月４日）
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/jitumusya/dai14/siryou2.pdf

とに設置した選考委員会において受賞者を決定する。

6　選考委員会の構成（案）

選考委員会は、当該アワード受賞対象機関の関係者及び行政機関を除いた実務者検討委員会及びワーキンググループ構成員の有識者のほか、外部有識者数名をもって構成する。

デジタルアーカイブジャパン・アワード（2023）選考委員会（案）

委員長	国立情報学研究所名誉教授　高野　明彦
委　員	一橋大学大学院法学研究科准教授　生貝　直人
委　員	知的資源イニシアティブ代表理事　山崎　博樹
委　員	筑波大学名誉教授　杉本　重雄
委　員	東京大学大学院情報学環教授　渡邉　英徳
委　員	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授　大向　一輝
委　員	上智大学文学部新聞学科教授　柴野　京子
委　員	名古屋大学大学院情報学研究科准教授　浦田　真由

7　授賞式

令和 5 年 8 月 25 日のデジタルアーカイブフェスのイベント時に行う。